



[HOME](#) > [学術ニュース&研究トピックス](#) > [学術ニュース](#) > [2015年](#) > 台風発生時の2週間予測が実現可能であることを実証 —台風発生予測の実用化に向けた第一歩—

学術ニュース

■ 2015

■ 2014

■ 2013

■ 2012

■ 2011

■ 2010

■ 2009

学術ニュース&研究トピックス一覧

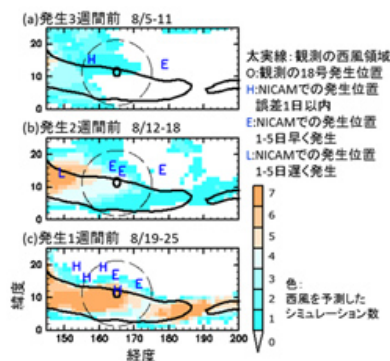
→ 学術ニュース一覧

→ 研究トピックス一覧

台風発生時の2週間予測が実現可能であることを実証 —台風発生予測の実用化に向けた第一歩—

2015年1月20日

独立行政法人海洋研究開発機構
東京大学大気海洋研究所



独立行政法人海洋研究開発機構（理事長 平 朝彦）シームレス環境予測研究分野の中野満寿男特任研究員と東京大学大気海洋研究所の佐藤正樹教授らの共同研究チームは、2004年8月に発生した8つの台風について、地球全体の雲の生成・消滅を詳細に計算できる全球雲システム解像モデル「NICAM」をスーパーコンピュータ「京」で実行することで多数のシミュレーションを実施し、約2週間先の台風発生予測が可能であることを実証しました。

詳しくはこちらをご覧ください。

[海洋研究開発機構プレスリリース（2015年1月20日）](#)

東京大学大気海洋研究所
〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5 [アクセス](#)
電話 04-7136-6006(代表) FAX 04-7136-6039

[サイトポリシー](#) | [関連リンク](#) | [サイトマップ](#) | [AORI Members Only](#)

研究所・センター長
会議

拠点協議会

知人よ、そして未来へ
東京大学基金

東大アラムナイ
すべての東大卒業生の為のサービス